5月の定例教育委員会のお知らせ

◆日時／5月15日㈭　15時から　◆場所／第2委員会室（自由に傍聴できます）
◆問い合わせ／教育振興課 総務係　☎0952−75−8022

教育委員会だより 「多久から発信！SDGs㊷」

「生と死について考える」

東部校では、生と死を考える授業に取り組み、9年間を通して、命には限りがあることや命は受け継がれてきたものであることを学んでいます。8年生は好生館の緩和ケア病棟を訪問し、ハンドベルを演奏したり手作りのカードを渡したりして患者さんと触れあう機会があります。

訪問する前に家族に「緩和ケアってどんな所？」と聞くと「看護師さんや医師の人たちが、体や心の痛みを和らげてくれる所だよ」と教えてくれました。行ってみると普通の病院よりも何か落ち着く感じがあり、スタッフのみなさんが患者さんの痛みや苦しみに寄り添う姿に心を打たれました。

カードを渡すとき、自分は緊張してあまり話が続きませんでした。友だちは動物の話で患者さんを笑顔にしていて、相手の心をつかむのが上手だなと思いました。カードを笑顔で受け取り、そのカードをベッドに並べて嬉しそうに眺めている患者さんを見て、命には限りがあることを実感すると同時に、残された命を最後まで生き抜こうとする姿に感動しました。そして、終末期の患者さんと接して、元気な自分はこれからどう生きるか、東部校での最後の一年をどうしたら充実した一年にできるかを真剣に考え、実践に移していきたいと思いました。

東原庠舎東部校 9年生
三ケ島昊希
松尾七菜海

3 すべての人に健康と福祉を

連載

多久市の指定文化財（2）

―高野神社石造肥前鳥居―［多久市重要文化財］

南多久町下多久二五〇〇番地

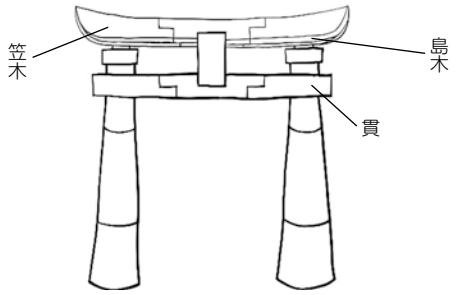
高野神社は、江戸時代の多久の地誌『丹邱邑誌』（深江順房著）によると、建久年中（一九〇―一九九）に多久宗直（前多久家開祖といわれる）が紀州高野明神を勧請して創建したとされ、龍造寺長信の社殿再建などを経て、明治時代になるまで多久家に尊崇されていたと記されています。

この神社の三の鳥居は肥前鳥居と呼ばれ、主に肥前地方を中心にみられる独特の特徴を持ちます。その形態は笠木と島木が一体化し、その両先端がゆるやかに反り、笠木・島木・貫・柱とも三本継ぎの典型的な肥前鳥居になっています。

この肥前鳥居は、刻まれた銘文によると、多久安順（多久邑初代領主）が元和九年（一六二三）に寄進したものです。また鳥居の柱には「大日本肥前州小城郡□□所大明神御宝前」、額束には「高野大明神」と刻まれており、上記『丹邱邑誌』に記載された創建の経緯なども踏まえたものと考えられます。

（教育振興課）

▶高野神社石造肥前鳥居（三の鳥居）



▶肥前鳥居の構造

市民文芸

短歌《麦の芽短歌会 互選》

◆死というは「過ぎゆく事」という実感
ひしひし 今朝も 友の死にあう
尾形 節子

◆「元気ね」と 一人暮らしに なった今
気にしてくれる 友のありがたさ
梶原恵美子

◆忘れない 僕が今まで 人生の
道なき道で 紡いだ言葉
野崎 隆幸

◆喜びも 悲しみも裏 表なり
あの日と同じ 風に吹かれる
川浪 信子

◆親思う 松陰の和歌 哀しかり
父母の恩愛 尚胸を打つ
浦野 嘉恵

俳句《大石ひろ女選》

◆春風や 園児の無垢な 笑ひ声
富樫 明美

◆草萌えて 茅葺屋根の 一軒屋
武富 律子

◆うららかや 峠の茶屋の 京言葉
おおやはな

◆満開の 辛夷の下で 友偲ぶ
本村 則子

◆源流の 水の煌めき 落椿
大石ひろ女

川柳《多久川柳会 互選》

◆宝クジ 五億に化ける 夢を買う
高塚ちかこ

◆思案する 五キロの米か 三キロか
田代えみこ

◆喜寿となり 人生のねじ 巻き直す
田中 正春

◆トランプだ カード次々 切っている
西山 残月

◆仕送りが 酒に化けてる とは知らず
田代まつこ